

私たちと杉の関わり

日本にしかない杉は、学名を「クリプトメリア・ジャポニカ」といい、「隠された日本の財産」を意味します。緻密でよく通った木目、あたたかな質感、心安らく甘い芳香、優れた調湿機能、軽量ゆへの加工性。わが国の先人たちは、杉がもつ価値に気づき、寺社建築や住宅、工芸品、舟、樽、木簡などに有効活用し、現在でも様々な場面で日本の暮らしと関わり続けています。



空気の浄化作用を持つ木の中でも特に杉は、大気中の汚染物質の吸収効果が強いと言われ、古来より衣服などを納める木箱「唐櫃」の素材として重用。その証拠に、杉材の唐櫃に収められた東大寺正倉院の宝物は、保存状態が良いことで知られています。

復刻版唐櫃
(飛騨産業製造 / 奈良国立文化財研究所監修)



強い耐久性やダニ・細菌の増殖を防ぐ効果のある杉は、日本酒、醤油、味噌、漬け物などを醸造・保存する際の樽として重宝されてきました。杉の柁目は縦に割れやすく、香り、口当たりも良いので、主に箸の素材として使われました。

利休箸 (奈良県黒滝村産吉野杉)



酒樽をはじめとする樽丸の側板には古くから吉野杉が使われ、吉野地方で大量に製造されていました。丹精込めて育てられた吉野杉のほのかな香りが酒の旨さをより引き出し、腐りにくくする特性があります。江戸時代後期～明治時代には吉野林業を代表する生産品となり、吉野林業そのものが「樽丸林業」と呼ばれていました。



日本の伝統的な住宅は、木と紙で作られ、その土地の風土・気候に合った過ごしやすい空間を提供してきました。調湿機能や断熱効果といった杉のチカラが、シックハウス症候群などとは無縁の真の安らぎをもたらしました。

奈良と飛騨の関わり

飛騨と奈良のものづくりの関係は、約1300年前に始まります。「飛騨の匠」と呼ばれる優れた木造建築技術を持った技術者集団は、現地に赴いて平城京・平安京の造営に才を発揮しました。



平城京大極殿

吉野林業の中心地である黒滝村と90年以上に渡る木工技術を有する飛騨産業が、時空を超えて手を携え、森づくりと一体化した持続可能な家具づくりの在り方を追求しております。



「日本の杉の家具展」(2015年1月開催)
松屋銀座デザインギャラリー 1953



黒滝村

黒滝村 林業建設課
〒638-0292
奈良県吉野郡黒滝村大字寺戸 77 番地
TEL: 0747-62-2031 FAX: 0747-62-2569
<http://www.vill.kurotaki.nara.jp/>



黒滝村森林組合

黒滝村森林組合
〒638-0251
奈良県吉野郡黒滝村大字寺戸 154 番地
TEL: 0747-62-2124 FAX: 0747-62-2179
<http://www5.kcn.ne.jp/~kuroshin>



HIDA

飛騨産業株式会社
〒506-8686
岐阜県高山市漆垣内町 3180
TEL: 0577-32-1001 FAX: 0577-34-9185
Email: info@kitutuki.co.jp
<http://kitutuki.co.jp>

飛騨産業は、安心安全でロングライフなモノづくりを追求しています。太陽光発電事業や植林活動を行うほか、全ての事業所において品質マネジメントシステムと環境マネジメントシステムの国際規格である [ISO9001:2008] と [ISO14001:2004] を認証取得。また塗料には、環境に優しく安全な F☆☆☆☆対応のものを使用するなど、商品はもちろんのこと会社の仕組みから使用する木材、そして未来の暮らしにまで目を向け、お客様に自信をもってお届けできる品質を目指しています。



奈良県黒滝村
吉野杉の家具

黒滝村の吉野杉

吉野杉は、主に奈良県中南部の日本三大美林の一つである吉野林業地を産地としています。

1500年頃、川上村で造林が行われたという記録が残っており、はるか昔から吉野林業の歴史が始まっていたことが分かっています。早くから植林が行われてきたため、黒滝村の森林のうち実に9割が人工林となっており、黒滝村は杉・桧の村といえます。木目の均一さや濃い桜を思わせるような赤身、無節の材料は、高級建築材として使用されてきました。また、時代を遡れば樽丸（酒樽やみそ樽などの原料）として日本各地に出荷されています。



黒滝村の杉の家具ができるまで

杉材は、古来より私たちの暮らしに深く関わってきましたが、柔らかく傷つきやすい特性から家具には不向きとされてきました。飛騨産業では、この柔らかいというデメリットを克服するために、曲木の技術のノウハウを活かし、杉を蒸煮し木材組織を軟化させて圧縮することで強度のある杉材にする圧縮技術を開発しました。またその後の研究により、うねりのある木目や多くの節が表に現れる板目材の圧縮から「内部均一圧縮技法」が開発され、上質な圧縮ピースの製作が可能になりました。

特に杉のなかでも年輪が緻密で凛とした吉野杉の特性を最大限に活かし、柁目が美しく堅牢な杉材が誕生したのです。

現在は、これら圧縮材の品質向上はもとより、化粧圧縮やくねくと曲がる軟質木材による三次元成形加工技術の研究などが盛んに進められ、杉の可能性を追求し続けています。



無圧縮杉材、35%圧縮杉材、50%圧縮杉材



杉圧縮柁目材



原木

製材

乾燥



蒸煮

圧縮

3次元圧縮

黒滝村の杉の特徴

吉野林業の特徴は「密植・多間伐・長伐期」による大径木生産です。80～100年ごとに伐採する高齢林は、緻密で幅が均等、真円に近い年輪と無節であること、渋抜き（葉枯らし）による目色（淡紅色）や色艶・香りが特徴です。1970年代には質の高さに建材としての需要も高まり、「吉野杉」のブランド化が進みました。このようにして、吉野・黒滝の人々は継続的な森の利用や持続可能な林業を、苗づくり・植林・下草刈り・枝打ち・間伐といったいくつもの工程を何代にもわたって行い、安定した水量と気温のもとで良質な杉材を守り育ててきました。

黒滝村の杉の家具



テーブル
160×90×70 cm
180×90×70 cm
design: 川上元美



アームチェア
59×52.5×78 cm
design: 川上元美



アームチェア
59×52.5×78 cm
design: 川上元美



キャビネット
50×42×106 cm
design: 柳宗理
特注対応品



スツール
38.5×38.5×42 cm
design: 柳宗理
特注対応品



テーブル
90Φ×70 cm
design: 柳宗理
特注対応品

この他にも黒滝村の吉野杉での対応が可能です。詳しくはお問い合わせ下さい。